



エコアクション 21

2023 年度

環境経営レポート

期間 2023 年 5 月 1 日～2024 年 4 月 30 日



発行日：2024 年 6 月 10 日

改訂日：2024 年 7 月 24 日

株式会社昌和精機

1.事業活動の内容

①事業所名及び代表者

株式会社昌和精機

代表取締役社長 釜田秀重

②所在地

本社：〒193-0833 東京都八王子市めじろ台 2-41-2(登記のみ)

相模湖工場：〒252-0175 神奈川県相模原市緑区若柳 542-7

③環境管理責任者氏名および連絡先

責任者：釜田秀重

電話:042-683-6966

Fax:042-683-6967

メール:hkamata@syowa-seiki.co.jp

③事業の概要

精密機器部品加工及び組立

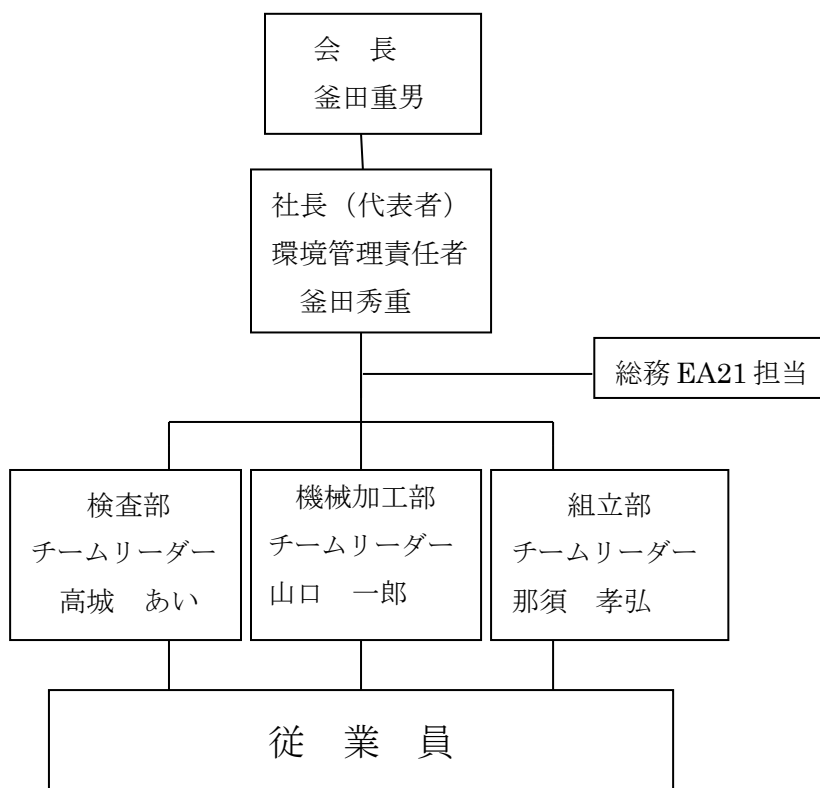
④事業規模

活動規模	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
売上高	百万円	326	265	269	340	330	278
従業員	人	26	29	29	31	29	29
床面積	m ²	1995	1995	1995	1995	1995	1995

⑤対象範囲（認証・登録範囲）

全組織（相模湖工場）、全活動（精密機器部品加工及び組み立て）、全従業員を対象としています。

2.環境組織体系図



	役割・責任・権限
代表者	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定 6. 経営の課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 総務EA21担当	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施する 4. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 5. 環境関連文書及び記録の作成・整理
各リーダー	1. 自部門における環境経営システムの実施、環境方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施、自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 2. 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 3. 特定された項目の手順書作成及び運用管理 4. 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成 5. 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	1. 環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する。

3.環境経営方針

< 環 境 経 営 方 針 >

基本理念

株式会社昌和精機は精密機器部品加工及び組立を通じて、地球環境保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、取引先及び地域住民に対して、安心してもらえる企業を目指し、その保護活動に積極的に取り組みます。また、美しい自然環境に恵まれた、神奈川県相模原市緑区に礎を置く企業として、技術的、経済的に可能な範囲で積極的かつ持続的に、環境へ配慮した企業活動を目指します。

環境経営方針

- ・ 目標を設定し、それらを達成する為に、全社的な環境管理システムを構築し、そのシステムの継続的な改善及び汚染の予防に努めます。
- ・ 事業活動上の環境に関連した法規を遵守し、地域社会との協調に努めます。
- ・ CO₂削減、節水、廃棄物削減を継続的に推進します。
- ・ 精密機器の部品加工及び組立まで、限りある資源の中、環境に配慮したものづくりを通じて社会に貢献します。
- ・ 経営方針である、お客様に喜んでもらえる製品の提供のために、全従業員にこの環境方針の周知徹底を図ります。

制定日 2009 年 11 月 21 日

改訂日 2017 年 09 月 01 日

株式会社 昌和精機

代表取締役社長 釜田秀重

4.環境経営目標

環境目標選定とその理由

今年度も昨年度同等の目標設定で遂行いたしました。

環境目標	基準値(2019 年度実績)	短期目標	中長期目標		
	2019年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素削減(kg-CO ₂)	83604.8	83781.2	82943.4	82114.0	81292.9
電力の削減(kwh)	148766	141775.1	140357.4	138953.8	137564.3
燃費の向上(KM/L)	13.1km/L	12	12.3	12.6	12.9
一般廃棄物の削減(kg)	311.3	320.2	317.0	313.8	310.7
産業廃棄物の削減(t)	7.1	8.2	8.1	8.0	7.9
水使用量の削減(m ³)	313.5	315.8	312.7	309.5	312.6
環境に配慮した製品・サービスの 推進					
・継続品向け通い箱の作成	18品目	22品目	23品目	24品目	25品目
・梱包材のリサイクル率		100%	100%	100%	100%

※二酸化炭素排出係数は東京電力 2018 年度調整後排出係数の 0.455(kg-CO₂/kWh)を使用

※PRTR 物質は使用していないので、化学物質にかかる目標は設定しておりません。

5.環境経営計画

- ・二酸化炭素削減ーデマンドコントローラー導入による最大需要電力の管理(目標 87kwh)

エアコンの使用管理 午前 8 : 30～午後 16 : 00

不要な電気の消灯

社有車のアイドリングストップ

社有車のハイブリッド化検討

エコ運転の徹底

- ・一般廃棄物ーFAXの一部ペーパーレス化

裏紙再利用

古紙分別

- ・産業廃棄物の削減ー契約書、マニフェストの管理、報告

排出量の把握、適正処理

- ・排水量の削減ー今後もお客様の洗浄強化の流れを鑑み、その中でもムダなく節水に努める

- ・自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

継続品向けの通い箱の作成

梱包材のリサイクル

6.環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

①環境経営目標の実績と評価

(達成率＝実績/目標)

環境目標	2023年度目標	2023年度実績	達成率	評価
二酸化炭素削減(kg-CO2)	83781.2	82240.1	98%	○
電力の削減(kwh)	141775.1	146407.0	103%	x
営業車の燃費向上(km/L)	12	12.5	104%	○
一般廃棄物の削減(kg)	320.2	253.4	79%	○
産業廃棄物の削減(t)	8.2	2.9	35%	○
水使用量の削減(m)	315.8	258.0	82%	○
環境に配慮した製品・サービスの推進				
・継続品向け通い箱の作成	22品目	22品目	100%	○
・梱包材のリサイクル率	100.0%	100.0	100%	○

※二酸化炭素排出係数は東京電力 2018 年度調整後排出係数 0.455(kg-CO2/kWh) を使用

※2023 年度二酸化炭素総排出量は 82240.1kg-CO2 です。

②環境経営計画の取り組み結果とその評価

1) 二酸化炭素の排出量削減及び電力の削減

二酸化炭素削減は目標達成できました。ガソリンの使用量及びガスの使用量の低減効果があったと思われます。

電力削減は残念ながら未達となりました。本年も猛暑や異常気象により平均気温が上昇する中、作業環境の室温維持、社員の体調管理を要因とするエアコンの使用増加により、デマンドコントローラーでの最大需給電力の上限変更を余儀なくされ 87 へ引き上げました。全社員節電意識は高く仕事はしていたのですが、暑さによる体調不調等もあり、エアコンを使用せざるを得ない状況が続きました。エアコンの入れ替えもすすめ、少なからず効果があったとは思いますが、大きな成果は得られませんでした。

営業車の燃費向上においても今期も意識高く取り組み、目標を達成いたしました。今後、売り上げ向上のための営業活動のエリアが広がっていくことも予想されますが、常に燃費運転、安全運転に努めていきます。

売上高を原単位としたデータは下記のようにになりました。売上が落ち込んでデータのバラツキが出て、原単位でのいいデータ取りになりました。引き続き継続していきます。

	2021	2022	2023
売上高(万円)	33959	33019	27872
二酸化炭素削減(kg-CO2)	103683.99	106363.1	82240.06
原単位:二酸化炭素kg-CO2/万円	3.05	3.22	2.95
電力の削減(kWh)	192863	199086	146407
原単位kwh/万円	5.68	6.03	5.25

2) 一般廃棄物の削減

今年度も、再利用、通い箱の製作等により達成できました。

引き続き、FAX 用紙の裏紙の再利用、梱包材の再利用（リサイクル）、通い箱の製作等で取り組んでいきます。

3) 産業廃棄物の削減

今年度も目標を達成できました。実質量は売上高の伸びと共に昨年度よりも購入量が増えましたが、目標を達成出来ました。

4) 排水量の削減

今年度目標をクリア致しました。特に水を多く使用するワイヤー放電加工機での仕事の受注が今期も少なかったことが要因と考えられます。引き続きムダのなきよう節水に努めていきます。

5) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

継続品向けの通い箱の作成により、23 品目の梱包材が不要になりました。

7.次年度の環境経営目標及び環境経営計画

①次年度の環境経営目標

環境目標	基準値(2023年度目標)	中長期目標			
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
二酸化炭素削減(kg-CO2)	83781.2	82943.4	82114.0	81292.8	
二酸化炭素削減(kg-CO2/万円)	2.95(2023実績)	2.92	2.89	2.86	
電力の削減(kwh)	141775.1	140357.3	138953.8	137564.2	
電力の削減(kwh/万円)	5.25(2023実績)	5.20	5.15	5.09	
燃費の向上(KM/L)	12.1	12.5	12.8	13.2	
一般廃棄物の削減(kg)	320.2	317.0	313.8	310.7	
産業廃棄物の削減(t)	8.2	8.12	8.04	7.96	
水使用量の削減(m ³)	315.8	312.6	309.5	306.4	
環境に配慮した製品・サービスの推進					
・製品の不具合率0.5%以下	0.65(2023実績)	0.5	0.48	0.46	

- ・二酸化炭素排出係数は東京電力 2018 年度調整後排出係数の 0.455(kg-CO2/kWh)を使用
- ・PRTR 物質は使用していないので、化学物質にかかる目標は設定しておりません。

②次年度の環境経営計画

・二酸化炭素削減

次年度より売上高を原単位とする二酸化炭素削減(kg-CO2/万円)と電力の削減(kwh/万円)の目標を追加し、実数値もしくは原単位のどちらかが目標を達成すれば良しとする

デマンドコントローラー導入による最大需要電力の管理(目標 81 k w h)

エアコンの使用管理 午前 8 : 30 ~ 16 : 00

不要な電気の消灯

社有車のアイドリングストップ

社有車のハイブリッド化検討

エコ運転の徹底

・一般廃棄物－F A X の一部ペーパーレス化

裏紙再利用

古紙分別

従業員にも定着してきたため、次年度計画より目標値を下げる予定です。

- ・排水量の削減－蛇口をこまめに止める
- ・産業廃棄物－維持管理の徹底
- ・自らが生産・販売・提供する製品及びサービス

次年度より弊社製品の不具合率を目標として掲げます。

8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

自主的に環境関連法規取りまとめ表により遵守状況を確認した結果、廃掃法、フロン排出抑制法、家電リサイクル法、消防法、浄化槽法、相模原市火災予防条例、自動車リサイクル法、相模原市廃棄物の減量化・資源化及び適正処理に関する条例、神奈川県生活環境の保全等に関する条例への違反はありませんでした。尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9.代表者による全体の評価と見直し指示(一部見直し：2024/7/24)

今年度二酸化炭素削減に関しては目標値に対して2%の目標達成となりました。主たる要因は、営業車の燃費向上と、ガスの使用量が減ったことによります。一方で電力の削減に関しては目標値-3%と達成できませんでした。これは今期も業務中のエアコンの使用頻度が多かったことが主要因と思われます。昨今の平均気温の上昇により社員の作業環境改善、社員負担低減の為、エアコン使用量を臨機応変に増やしたことにより、最大需要電力の上限値の設定を超え、想定以上の消費となってしまいました。その中で来年度も古いエアコンの更新を予定しており、少しでも二酸化炭素削減できればと考えております。

営業車の燃費向上における二酸化炭素削減においては、目標値+4.0%と引き続き意識高く取り組み、今年も目標を達成できました。

一般廃棄物排出量削減に関しては目標値に対して79%と達成できました。裏紙使用や通い箱の製作によるリユース品の継続取り組みの結果だと思えます。

産業廃棄物削減に関しましては、目標値に対して30%と大きく達成できました。この要因は事業の全体的な受注減に比例してると考えられます。

排水量削減に関しても、目標値に対して82%と今年度も目標達成できました。これは今年も水を多く使用するワイヤー放電加工機の仕事が減ったことが大きな要因ですので、受注が復活しても、目標達成できるように継続して意識していきます。

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する目標に関しましても、今期も全て達成できましたので、引き続き継続していきたいと思えます。

総じて、今年度は電力の削減の目標を達成できなかったことは残念ですが、それ以外の目標は全て達成出来たのは、全社員の協力のおかげですので感謝につきます。また、今期の売上げ減少と環境目標のデータが比例している部分も見られるので、次年度も売上高を原単位として継続してデータ取りをしたいと思えます。

次年度も、まだまだ製造業全体の回復の兆しは見えるものの弱く、仕事の受注予測はまだまだ不透明ですが、どのような状況であれ、次年度も目標達成できるよう周知徹底し、また今期入社の新入社員一人一人に対しても当社の取り組みを理解してもらい、意識付けをして、継続して全社一丸となり目標達成に向け取り組んでいきたいと思えます。そして引き続き自然と共生し、できる限り少ないエネルギーで、最大のものづくりができるよう、全社員で取り組んで生きたいと思えます。

尚、環境経営方針、実施体制の見直しの必要は無しとします。

次年度の環境経営目標、及び環境経営計画に関しましては、二酸化炭素削減では、売上高を原単位とした、仕事の売上には左右されない目標も立て、実数値もしくは原単位のどちらかで目標達成できるようにいたします。また環境に配慮した製品・サービスの推進においては、従前の通い箱の作成及び梱包材のリサイクル率のから、お客様への製品の不具合率を目標に設定変更いたします。